

75歳以上の後期高齢者医療改悪に反対し 「垣老」制度を守りましょう

後期高齢者医療制度の窓口負担が2割に改悪される動きがあり、それに伴い「垣老」がどうなるか、心配の声が寄せられています。大垣の宝と言われる老人医療費成制度についてレポートします。

党市福祉対策委員長 はんざわ多美

大垣には「垣老」がある

「70歳から74歳までの医療費窓口負担1割の制度は大垣市独自の制度だと初めて知りました。自分はまだ50代だけれども、10年20年先には年金生活が始まることを考えると高齢期の社会保障は自分の問題でもあるんだととても心配にもなっています。もっと医療や福祉の制度を知りたい。」このような思いを先日、ある女性が話されました。子育てが一段落すると次は親の介護、そして自身の年金生活が始まります。「医療」「社会福祉」そして「社会保障」制度の重要性を痛感する時期や程度には個人差があるものの、多くの市民・国民にとって、その充実健康と生活の安心を得るためになくしてはならないものではないでしょうか。

高齢者の窓口負担1割の制度は

冒頭の女性が話す高齢者の窓口負担1割の制度は、「垣老(がきろう)」と言われています。高齢者にとってはなじみのある制度で「垣老」といえばわかるそうです。しかし、60歳代以下の世代は知らない方も多くいます。現在、国の制度では70歳から74歳までは原則2割負担なのを、大垣市では1割分を市が補助する

ので市民の負担は原則1割という画期的な制度が「垣老」といわれる制度です(図)。探したところ、全国でも例のない医療費助成制度です。この制度があるため、たとえば岐阜市民の70歳の方が病院を受診する際に2000円請求をうけるところ、大垣市民であれば1000円で同じ治療が受けられるわけです。「1割負担は本当に助かる」と高齢者は口々に言われます。高齢期は決まった年金額での生活になりますし病気になる率も高くなります。重症化する率も高くなるので早めの受診が功を奏することにもなります。「垣老」は市民の宝だと高齢者が口々に言われますが、本当にそのとおりだと思います。

高齢者の医療制度の比較

| | ～69歳 | 70歳から74歳 | 75歳～ |
|-----|------|----------|------|
| 大垣市 | 3割 | 1割 | 1割 |
| 岐阜市 | 3割 | 2割 | 1割 |
| 国 | 3割 | 2割 | 1割 |

大垣市当局の回答(12月議会) 「垣老」の継続は「未定」

一方で、昨年暮れの12月議会の委員会でも、日本共産党の中田としや議員が「垣老」は継続ですか？と質問を行

いました。行政担当者から返ってきた応えは「今後は未定」とのことでした。政府は75歳以上をも医療費の窓口負担を原則2割とする検討を財政審議会で行っているもので、そうした議論も踏まえると「垣老」廃止の危機を迎えることになりかねません。かつて、「垣老」が廃止されようとした時期に高齢者や住民が積極的に署名活動をして、議会と行政を動かして守った経緯があると16年間市議を務める笹田議員は歴史を伝えます。

西濃社保協 後期高齢医療2割負担に反対し 「垣老」の継続を要望

「垣老」をはじめとした「医療」「福祉」「社会保障」を守るために、住民ができることの一つとして、先ほどあげた「署名活動」がありますが、市長(行政)との「懇談会」という方法もあります。昨年12月には、「垣老」の継続も盛り込んだ「要望書」をもとに住民と自治体との「懇談会」を西濃社会保障推進協議会(西濃社保協)として取り組みました。大垣市として、「垣老」の継続と、国に対する75歳以上原則2割負担とする制度の導入に反対する要望をしました。大垣市の明確な回答は得られなかったものの、今後の市政の重要な課題として注視していきたいと思っています。